

## 「今後の県立高校に関する意見交換会（第1回）」記録要旨【宮古ブロック】

平成 27 年 6 月 23 日（火）

宮古水産高校 2階会議室

### 【宮古市 参加者】

- ・県内県立高校の不登校、中途退学者の数を教えていただきたい。
- ・宮古高校の定時制と杜陵高校宮古分室の在籍生徒数を教えていただきたい。

### 【 県教委 】

- ・病気や経済的な理由を除き年間 30 日以上欠席している、いわゆる「不登校」の生徒数は県全体では平成 20 年度 485 人、1. 44%であったが、平成 25 年度は 373 人、1. 26%となり若干減少している。全日制における中途退学者は平成 19 年度 413 人、1. 22%であったが、平成 25 年度は 220 人、0. 76%とこちらも減少傾向となっている。
- ・宮古高校定時制の在籍生徒数は、平成 26 年度の集計では、1 年生 7 名、2 年生 8 名、3 年生 5 名、4 年生以降は 6 名、全体で 26 名となっている。
- ・杜陵高校宮古分室の在籍生徒数は、平成 26 年度の集計では、1 年生 19 名、2 年生 15 名、3 年生 15 名、4 年生以降は 110 名、全体で 159 名が在籍している。

### 【宮古市 参加者】

- ・宮古地区は内陸部の高校に比較して高校の数が少ない。大規模校になじめない生徒もいると思うので、不登校等の生徒にきめ細かく対応できる小規模校の意義はあると考える。こういったことを考慮して高校再編計画を進めていただきたい。

### 【 県教委 】

- ・今後、地域の事情を十分考慮し学校・学科の在り方を、地域の皆様の御意見を伺いながら検討していきたい。小規模校の在り方についても、地域の交通事情や復興途上であるということ等に配慮しながら、慎重に進めていきたい。

### 【宮古市 参加者】

- ・宮古ブロックから地区外への転出が 114. 7 人となっているが、この内訳について、例えば普通高校に進学したのか専門高校に進学したのか、わかれば教えていただきたい。

### 【 県教委 】

- ・校種毎の集計は行っていないので、傾向でお話しすると、宮古ブロックにない学科や学系、私立高校に進学している例が見られる。

### 【宮古市 参加者】

- ・例えば、他ブロックの工業高校に多く進学しているということであれば、地元にある工業高校に魅力がないため再編するということもあるかもしれないが、この資料では沿岸部の全てのブロックから内陸部に流出している。このままでは沿岸部に若い人がいなくなり、ますます沿岸部と内陸部の格差が広がることになる。このようなことを放置して良いのかという意見である。

### 【 県教委 】

- ・当地区での学校・学科の配置についての御意見として受け止めさせていただきたい。本日、行われ

（次頁に続く）

た地域検討会では出席した方々から宮古ブロックは普通高校、専門高校のバランスが良く配置されているとの御意見をいただいたところ。宮古ブロックからの転出が多くなっているという課題に対しては、生徒減少が進む中でどのような学校・学科の配置が望ましいのか、地域の産業構造を踏まえた上で検討を進めなければならないと考えている。具体的な学科の設置について要望等があれば、御意見を伺いたい。

**【 県教委 】**

- ・学科の配置について、専門高校は地域の実情を考慮して設置していることから、一つの地区で全ての学科を揃えることは難しい。広域での学科の在り方等について、御意見があれば伺いたい。

**【宮古市 参加者】**

- ・本日の地域検討会議で話題に上がっていた総合学科高校の課題に、2年次からの系列選択となることから、専門教科指導において学習内容が深まらないとの指摘がある。例えば、制度的には難しいとは思いますが、総合学科を4年制にするとか5年制にする等して総合学科高校での専門教育を充実させることは考えられないのか。

**【 県教委 】**

- ・本日の地域検討会議では、学校の形態として、総合学科高校とともに、総合的な専門高校についても説明をさせていただいたところ。総合学科高校は1年次で「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」等を通して、将来の自分の進路の方向性を定め、2年次から進路希望にあった系列を選択し学習していく内容になっている。一方、総合的な専門高校は複数の専門学科を併設して、所属する学科の科目以外に、他の専門分野の教科・科目を選択履修することができる高校で、専門教育の専門性を確保するとともに、進路希望に応じて関連分野を総合的に学習できるという特色がある。総合学科高校は、高校に入ってから自分の進路を決める生徒にとっては良いシステムとなっている。
- ・総合学科の専門性を高める教育の在り方についての御意見であるが、当地区では宮古水産高校に3級海技士の資格取得を目的とした専攻科を設置しているが、これを総合学科まで拡大するという点については、専修学校等との役割分担ということもあり難しいと認識している。

**【 県教委 】**

- ・県立高校には宮古水産高校、黒沢尻工業高校、盛岡農業高校に専攻科を設置している。宮古水産高校は明確な資格取得を目的としているのである程度の需要はある。黒沢尻工業高校の専攻科は、景気が良くなると高卒の就職者が多くなることから生徒募集に苦勞するという側面がある。なお、専攻科卒業生は高卒となるので、専門学校や短大、大学等へ進学し、専門性を身に付けようと考えている生徒はいる。総合学科の専攻科となると、生徒のニーズがどれだけあるかということを考え検討していかなければならない。

**【宮古市 参加者】**

- ・子ども達は自分がやりたい部活動がある高校に進学したいという気持ちを持っている。やりたい部活動が地元の高校になれば、ブロック外の高校に進学したいという気持ちはよくわかる。少子化により学校の規模が小さくなれば部活動の選択肢が狭められる。子ども達が充実した高校生活を送るには、ある程度の学校規模は必要と考えており、そういう意味である程度の学校規模を持った総合学科高校には魅力を感じている。

(次頁に続く)

## 【 県教委 】

- ・小規模校においては希望する部活動が設置できない、専門の顧問を配置できない等の課題はあるところ。そういった観点も踏まえて今後の再編計画を検討して参りたい。

## 【 県教委 】

- ・総合的な専門高校は専門学科を組合せることにより、一定の学校規模を確保することで生徒の多様な活動を保障するというメリットがある。県内には、花北青雲高校、釜石商工高校、大船渡東高校がそのような形態の学校である。総合学科高校は系列となっているため、専門学科のような定員は決まっていない。ある程度の人数が集まれば専門教育が出来るというメリットはあるが、専門教育を2年しか履修できないという課題はある。学校の形態としては、このように総合的専門高校や総合学科高校があるということを御理解していただき、様々な御意見をいただきたい。

## 【宮古市 参加者】

- ・少子化の進行により高校の再編はある程度やむを得ないものと考えている。しかし、小規模校ではきめ細やかな指導ができること等のメリットはあり、工夫次第で良い教育活動は出来るのではないかと感じている。
- ・宮古ブロックは平成31年には160人減ることが見込まれているが、単に数字に当てはめて再編を進めていくことに危機感を持っている。宮古ブロックは広範囲であり、そういった地域の交通事情を十分考慮し再編計画を進めてほしい。
- ・総合学科高校は専門教育を十分出来ないことから、設置には賛成できない。宮古ブロックに限らず専門教育は専門高校で行うことが望ましいと考えている。どうしても再編しなければならないとなった場合、釜石商工高校のような総合的な専門高校が望ましいと考えている。
- ・専攻科の設置は制度的に難しいとのことであったが、宮古ブロックには大学や短大、専門学校に進学できない生徒もいると思うので、専攻科に進学したい生徒がどれだけいるか、具体的な数字を把握していただきたい。

## 【 県教委 】

- ・宮古ブロックの平成27年度入試における欠員は195人となっており、現在でも定員を十分満たしていない状況である。このような状況が続くと、高校入試における中学生の学習意欲の低下にも繋がっていくことが懸念される。一方で、沿岸や中山間地の地理的条件や通学手段のことも考慮することが必要であり、そういったことを十分踏まえながら考えていかなければならない。
- ・通学支援については、統合に伴い通学が困難となる場合に、公共交通機関等の状況も考慮して通学手段の確保策を検討するものであり、現状の通学に係る交通費の支援については、公平性の観点から全県的な支援は難しいと考えている。なお、被災地については、学びの基金等で経済的な支援は行っているところである。
- ・専攻科については、宮古水産高校には3級海技士の資格取得を目的として専攻科を設置している。黒沢尻工業高校の専攻科はものづくりを支えるということで、産業界から提言いただき、平成19年に設置している。基本的に専攻科は高卒扱いとなるが、黒沢尻工業高校の専攻科は県内に就職した場合、企業の御理解をいただき、短大と同等の扱い（処遇）をしていただいている。今後、国の制度改正で専攻科が短大扱いとなることが検討されている。盛岡農業高校には、就農しながら農業の専門的な知識技術を身に付けることを目的に特別専攻科を設置している。こういった中にあり、新しい専攻科の設置については慎重に考えていかなければならないと感じている。 (次頁に続く)

- ・御意見をいただいた専攻科は、どの専門高校に対しての設置要望だったのか伺いたい。

**【宮古市 参加者】**

- ・宮古ブロックには宮古水産高校の専攻科しかないので、別な分野を深く学びたいという生徒もいるのではないか。そのような専攻科を希望する生徒はどれくらいいるのか調べることはできないかという質問であった。

**【 県教委 】**

- ・直ちに調査することは出来ないと思うが検討させていただきたい。新たな専攻科の設置については、資格取得や進路先等をしっかり保障しなければ、仮に設置したとしても入学者を確保することは難しいと考えている。こういったことを十分踏まえながら検討したい。

**【 県教委 】**

- ・工業高校の専攻科は、企業からのニーズで設置されている。このようなことがないと新たな専攻科の設置は難しいところがある。

**【宮古市 参加者】**

- ・総合学科設置校とその系列の種類、各系列での資格取得の状況はどうなっているか。また、総合学科高校に統合した場合、専門性の確保をどのように考えているのか伺いたい。

**【 県教委 】**

- ・県内の総合学科高校は、紫波総合高校、北上翔南高校、岩谷堂高校、一関第二高校、久慈東高校、一戸高校の6校となっている。
- ・主な系列は、進学を目指す人文自然系列、福祉関連の福祉・健康系列、商業系の情報・経済系列、家庭系のライフデザイン系列、農業系のエコロジーフード系列、この他に、水産系の海洋科学系列、調理師の資格を取得する食物系列がある。現在、県内全ての総合学科高校では、将来の進路を見据えて科目を系統的に選択できるように系列を重視したカリキュラムになっている。
- ・総合学科における資格の取得に関しては、福祉関係の系列では以前は介護福祉士の資格を取得できたが、国の制度改正で実習時間の確保が難しくなったこともあり、現在では介護福祉士の資格は取得できなくなった。しかしながら、介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー2級）の資格は取得しているところ。
- ・総合学科高校における専門性の確保について、総合学科高校は2年次からの系列選択となるので専門性や資格取得の面では専門高校には及ばないところはある。一方、それぞれの専門学科が集まった総合的な専門高校では、各専門分野を学ぶことが出来ることから、単独の専門高校に劣らない専門性を生かした進路先を確保している例も見られる。また、他学科の求人情報も活用できることから進路選択の幅も広がっている。こういった高校もあるということ御理解いただきたい。
- ・なお、本日の資料については、県のホームページに掲載するので、本日御出席できなかった方々に対してお示しし、御意見をいただければありがたい。